

●千葉大学名誉教授、薬学博士 佐藤 哲男氏 寄稿

▼第14話 脳梗塞は時間との勝負

「脳卒中」とは、脳の血管が詰まる「脳梗塞」と脳の血管が破れて出血する「脳内出血」「くも膜下出血」をひっくるめた呼び名です。昔は「中気」や「中風」ともいわれました。「脳梗塞」は単に加齢だけではなく、高血圧や糖尿病、心臓病、喫煙や飲酒などによる生活習慣病の一つで、がん・心臓病に次いで日本人の死因の第三位です。

脳の血管が血栓で詰まると、それより先の部分には酸素や栄養分が行届かないので脳細胞が死にます。これが「脳梗塞」です。心筋梗塞や脳梗塞には多くの場合前兆があります。「片方の手足がしびれて力が入らない」「激しい頭痛がする」「ろれつが回らない」「ものが二重に見える」「急に手の力が抜けて、持っているものを落とす」などの症状の場合は、小さな血栓が一時的に脳の血管を詰まらせた状態です。小さい血栓は速い血流で流されたり溶けたりしますので、一日も経つと症状が治まるのでそのまま病院に行かない人も多いためです。しかし、その後再発することが多いので、前兆や症状が出たら一刻も早く病院で診断、治療を受ける事をお勧めします。

脳梗塞の治療は時間との勝負です。使う治療薬は症状が出てからの時間により違います。脳梗塞を起こした直後の場合は、「t-PA」（テーピーエー）（一般名：アルテプラゼ）という薬が多く用いられています。ただし t-PA は、症状が出てから 3 時間以内に使用しないと効きません。症状が出てから 4 8 時間以内に意識が回復した場合には、アルガトロバン（商品名：ノバスタン、スロンノン）、ウロキナーゼ（商品名：ウロキナーゼ、ウロナーゼ）、ワルファリンを投与して、血栓が大きくなるのを防ぎます。その後、症状が安定したら、「塩酸チクロピジン」（商品名：パナルジン）、「シロスタゾール」（商品名：プレタール、エバテールなど）、「アスピリン」（商品名：バイアスピリン、小児用バファリン）などの錠剤を毎日飲みます。ワルファリンや「アスピリン」「小児用バファリン」は予防薬としても多く使われています。

脳梗塞や脳出血の症状が出たら一刻も早く治療することが肝心です。さもないと、症状が悪化して後遺症を残して介護が必要となることが少なくあり

ません。特に、コレステロール値が高い人は脳梗塞や心筋梗塞になり易いので、医師と相談しながら薬による治療を継続することが必要です。

*特別連載寄稿「健康、心、薬」第十四弾に続く！！

